



す 舞 る

special support smile 舞鶴

発行：京都府立舞鶴支援学校 地域支援センター「トータルサポートセンター（TSC）」

◇ 住所：京都府舞鶴市字堀4の1（〒624-0812） ◇ 電話：0773-78-3133 ◇ FAX：78-3135

～平成28年度 年間相談活動のまとめ～

今年度も舞鶴支援学校地域支援センター「トータルサポートセンター」の活動に御理解と御協力を賜りありがとうございました。今年度のまとめを報告します。（2月末現在）

（1）全体の相談・支援件数

相談件数		延件数の内訳(形態別)		
延件数	新規	電話	来校	巡回
358	161	5	123	230

相談の依頼の延べ件数は昨年度よりも100件余減りました。これは主に行永分校の短期サポートの減少です。新規(今年度になってからの依頼)の件数は12件の減でしたが総数はおおよそ昨年度並みでした。

（2）学校種別の新規相談・支援件数

新規相談総数	就学前	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他
161	51	92	17	1	0	0
割合	31.7%	57.1%	10.6%	0.6%		

校種別の依頼傾向はおおよそ昨年度並みでした。

（3）新規相談の主たる相談内容

新規相談総数	学習(内容・支援の手立て等)	コミュニケーション・生活	就学・進路	支援体制(サービスを含む)	研修について	その他
161	82	45	1	0	0	33
割合	50.9%	28.0%	0.6%			20.5%

就学前の教育機関からは園での生活や社会性・コミュニケーションに係わる相談が多く、小学校になると障害特性をふまえた学習支援についての相談がほとんどになりました。

TSCでは7つの相談・支援を行っています

- ①教育相談(巡回・来校・電話) ②研修会への講師派遣 ③研修講座の開催 ④学校等の事例研究会への支援 ⑤教材・教具に関する相談と貸し出し ⑥特別支援教育に関する情報提供 ⑦短期入院児童生徒への支援(行永分校の短期サポート)
- 先ずはお電話をください。**

研修講座：合同研修会の報告～切れ目無い支援を目指して～

昨年(2017年)の11月24日に舞鶴支援学校、舞鶴市特別支援教育研究会、舞鶴市健康・子ども部子ども支援課の三者共催の合同研修会を開催しました。『切れ目無い支援の充実を目指して』をテーマにステージ間移行の実践報告と研究協議、講演を行いました。

実践報告は「就学前から小学校へ」(池内幼稚園) 「小学校から中学校へ」(由良川小学校) 「通級指導教室から中学校へ」(明倫小学校) を先生方から移行支援の現状報告していただきました。各ステージで行ってきた取組や支援を次のステージにどのようにつないでいったのか具体的な事例をとおして報告がありました。資料を送るだけでなく引き継ぎ会を設定するなど丁寧な移行がされていました。

移行後の様子が充分に分からない、移行資料の様式が統一されていると分かりやすい等の課題も出されました。

後半はびわこ学院大学の藤井茂樹先生から『切れ目無い支援の充実を目指して～既存ツールの活用』と題して講演がありました。国の施策にもふれながら早期からの支援、一貫した支援の重要性を話されました。一貫性のある支援を受けるためには支援ファイルの活用が大切であること。ライフステージをとおして「個別の(教育)支援計画」が策定・活用され、定期的な見直しがされること。学校では「個別の指導計画」に基づいた指導が行われることを強調されました。そのためには特別支援教育の推進が重要で特別支援教育コーディネーターの果たす役割が大きいと言われました。コーディネーターを特別支援教育の専門性が高い人、全体を見渡しコーディネートできる人の複数配置で特別支援教育が大きく進展した例を示されました。



～感想 (アンケートより一部紹介)～

- ・連携は切れ目無くすること。支援計画作成がツールとして大切だと勉強になった。
- ・各機関での支援内容を具体的に知ることができた。現場の取組については丁寧に対応されていることが良く分かった。
- ・今教えている生徒が将来どのような仕事に就くのか、そのためにどんな力をつけさせるのか。今一度意識して実践をしないといけないと実感した。
- ・気づきの段階からの支援の大切さ、将来を見据えての接続の重要性を感じた。京都府下同一の支援計画の書類を作って欲しい。
- ・切れ目無い支援を「個別の指導計画」「支援計画」を中心にすえて、幼少期より成人まで(成人してからも)つないでいく方法、個人ファイルの活用は大変意義のある方法だと思った。

～平成29年度に向けて～

障害や発達について困っていることや悩んでいることがあればTSCに先ず電話をしてください。障害や発達についての研修講座を**関係機関と連携**を取りながら、**ニーズに応じた研修**を計画していきます。皆様の学びのニーズを届けてください。今年度に引き続きTSCの活動が地域の支援力を高める一助になれば幸いです。